

夏の名残がまだ感じられる9月の、この佳き日に、令和5年度 愛媛県立松山東高等学校通信制課程の卒業証書授与式を挙行できますことは、我々教職員一同、この上ない喜びです。

卒業証書を授与いたしました卒業生の皆さん、おめでとうございます。皆さんの卒業をうれしく思うとともに、皆さんが私たちのもとから旅立たれることを、少し寂しく感じています。

皆さんは、これまで、いろいろな困難を乗り越えて、レポートやスクーリングに取り組み、見事、卒業を迎えることとなりました。いろいろな困難の中には、人間関係のこともあれば、体調のこと、学習に関することもあったかもしれません。8月に実施した生活体験発表では、発表を聞いた生徒の皆さんから、「不安を抱えているのは自分だけではないんだと実感できた」「私は、自分の力だけで頑張ろうとしてきたが、皆さんの発表は周りの人の支えに目が向けられていた」といった感想が寄せられました。「ひとりじゃないんだ、がんばろう」をモットーとする本校の教育課程を終え、今日卒業される皆さんは、友垣や先生方、そして御家族に支えられて、今日まで、かけがえのない経験をしてこられたのだと思います。

常々私は、人生は、後ろに向かって進むようなものだと思っています。今、皆さんに見えるのは、すでに経験した過去の世界です。既に経験したから、何があったか分かっている、見えている。これから先の人生は、まだ見えていない方向にあります。この先に何かあるかわかりません。これからは、見えないほうに向かって、そこに何かあるのか確認しながら、おそるおそる進んでいくことになる。そのとき、もし、自分の視野が今より広ければ、見えない未来を、余裕を持って進んでいくことができるのです。そのために、私たちは、生涯にわたって学び続け、多くの経験を積んで、見える範囲を広げていくのです。通信制で学んだこの経験は、未来に生きていくための視野を広げるためでもありました。そして、皆さんは、今後も、学び続け、多くの経験を積んで、生きていくための視野を広げていく必要があるのだと思います。

保護者の皆様、本校入学以来、様々な御苦労や御心配があったことと存じますが、本日、お子様はこのように頼もしく成長され、晴れの御卒業となりました。心からお喜びを申し上げます。皆様の支えに感謝と敬意を述べさせていただきます。

卒業生の皆さん。いよいよ旅立ちです。私は、皆さんと同じときを、松山東高校で過ごせたことを、本当にうれしく思っています。卒業おめでとう。皆さんは、私たち教職員にとって、また、地域や社会にとって、かけがえのない存在です。

皆さんの今後の成長を心から応援し、式辞といたします。

令和5年9月30日

愛媛県立松山東高等学校長 沖田浩史